

2023年7月12日

学校法人三幸学園
札幌こども専門学校
校長 中村 淳 殿

学校関係者評価委員会
委員長 高橋 奈妙

学校関係者評価委員会実施報告

2022年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 高橋 奈妙 (飛鳥未来高等学校札幌キャンパス キャンパス長)
- ② 川原 祥吾 (共立メンテナンス 寮事業本部札幌支店)
- ③ 山田 亜美 (しろいし幼稚園 教諭 卒業生)

2 学校関係者評価委員会の開催状況

2023年6月23日 (会場 札幌こども専門学校 303教室)

3 学校関係者委員会報告

以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

2022年度 学校法人 三幸学園 札幌こども専門学校 自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 伊藤 信

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 高橋 奈妙

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、保育分野の学校として「こどもを育み、人・社会を活性化することで日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、保育分野として「皆から信頼・感謝されるこどもの未来を育む人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

教務目標

退学率:4.0%以内

クラスアンケート「情報伝達」:3.5%以上

授業アンケート「授業方法の工夫」:3.7%以上

クラスアンケート「担任が目指す業界理解」:3.7以上

授業アンケート「先生はあなたの名前を覚えてくれていますか」:3.7以上

1) 退学防止対策

オンラインから対面授業復活に向けて、一人担任ではなく「チーム・ペア担任制」へと移行。

2) 平常の指導を徹底したうえで、支援が必要な生徒には放課後の“保育士養成ゼミ”でサポートを行う。
指導案・制作物のフォロー、勉強の習慣がない生徒のフォロー。

3) 学生相談窓口としてスクールカウンセラーの他、小田原短期大学教員による“オフィスアワー”を開設し、学生相談を実施。

4) 業界理解のための教職員向け研修を実施。

5) 教科ごとの課題の明確化と改善・対策をするために教科会の定期開催を実施。

❶ 全面登校が復活し、より生徒が相談しやすい環境を整えたが、それ以前に「人間関係」でつまづく生徒が増えたことで、全国的にも退学率が上昇した。

❷ 保育士養成ゼミの利用者が例年と同様に多く、実習や保育業界への不安解消に繋がり、意欲低下を防げた。

❸ スクールカウンセラーよりも気軽に相談が可能のため、学生相談の利用者も多く、担任のみでなく、複数の教員によりかわりあうことで退学防止となった。

❹ 研修において、保育業界の最新情報を共有したことで、授業の内容に最新の情報を盛り込むことができた。
学生の主体性を育成するための教務への意識を高めることができた。

❺ 生徒が目指す業界への見本として、全教員が生徒の名前を覚え呼ぶことを徹底したことで前年より改善した。

② 学校関係者評価委員会コメント

・高校分野の課題として、今後、進学後や社会に出るために通学習慣を付けることは大事と考える。飛鳥未来高校では通信の中でも通う頻度が高く、専門学校を希望する生徒は比較的学校に通学している生徒が多い。距離感のつかみ方、友達とのコミュニケーション、友人関係の築き方が難しい生徒は多いが、入学時の面談によって、どういう生徒なのかを事前に把握し教務に活かしている。入学時のアンケートの情報を細かく活用し個々の対応に活かせるの良いのではないかと。(高橋委員)

・全面登校とオンライン時期の両方を経験した身から、登校スタイルは人によって全く違っていた。友達に会いたくて学校に来たい友人もいれば、なるべく会わずにオンラインの方が楽で良いという友人もたくさんいたのが現状。登校するメリットや魅力が多くあったとしても人の考え方・性格によって違うため難しい問題と捉えていた。(山田委員)

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか)	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

1) 業界のニーズの把握は、尽きることがないので、地域との連携や情報収集強化は常に必要。

② 今後の改善方策

❶ 学生に対しても、入学時の説明で、上記については説明を行い、周知を図る。

業界のニーズを把握する点は、“エリア担当”が実習巡回時に業界ニーズを収集することで、常に最新の業界の動きを把握し、全国の会議にて検討してカリキュラム作成にも生かしていく。また、地域とのかかわりを強化するべく、訪問を数多くおこない、業界の動きに柔軟に対応し続ける。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・外部や業界現場から得られる情報はとても貴重であり、求めているものは常に変化もしている。通信制高校の中で情報共有は難しいが、同業の教員間で有効な情報をできるだけ多く得られるように努力もしている。(高橋委員)

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

1)情報システム化については、infoClipper という学生管理システムと、SANKOGATE という学内ポータルサイトを使用して授業の効率化・成績の効率化を図っているが、連動の不具合への対応や、現場での出欠把握と入力内容のチェック機能についてはまだ改善の余地がある。

2)コンプライアンスについては、認識を統一するため年度初めの全体会議にて全教員に向けて研修を実施しているが、年々多種多様となっている。時代に合わせた情報を提供して、より一層意識を向上させる必要がある

② 今後の改善方策

❶システムの効率化が図れる一方、公認欠席等で出欠情報がのちに変更になる際の手順が定着していない。現在は教科教員による入力と、担任による確認作業が複雑となっているため、確認作業を事務の一本化をして着実な管理ができるよう改善を図る。

❷コンプライアンスについては、全国の事例を共有する機会を設け、意識が低下しないよう学ぶ機会を増やす。情報のシステム化については、活用の仕方について全教員が使いこなすことができるように研修を実施する。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・在学中に SANKOGATE(学内ポータルサイト)を見ない人が周りにはたくさん存在していた。定期的にしっかり見られている生徒はいるため、見ない生徒はその生徒に頼っていた。自ら見ないといけない状況や、そもそも見る習慣を付けるところから実施をする必要があるかもしれない。(山田委員)

・飛鳥未来高校では、Google クラウドの活用、教室への掲示、電話掛けを屈指して追いかけているのが現状。その中でも情報伝達の遅さが声としてあがる傾向もある。それは会話の中での返答の遅さなのか、単純にスケジュール的に伝達が遅いと判断しているのかなど、解決を図れない部分も多いと感じる。(高橋委員)

・個人携帯ドミコのアプリ(LINE のようなもの)で一斉配信をしているが、見ない人は現状として多い。併せて大きなテレビにて掲示を映し出して対応をしている。(川原委員)

・Google クラウドは科目ごとに設定ができ、生徒が web 上で授業の資料を見ることができたり、宿題を実施することができ、活用はしやすいと感じているため、一つの伝達ツールをして使用も検討してみてもどうか。(高橋委員)

(3)教育活動

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格(免許)取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

1) 全体会議にて教職員向けの研修を実施したが、複数回実施をしていきたい。

教職員向けの研修は、三幸学園全体として積極的に学べる環境となっているが、関連分野に限るとまだできることがある。実習先からいただいた情報の収集と活用がまだ不十分であるため、巡回や訪問の仕方を見直し、保育施設との関係性の構築を図り、実習生に求めることや保育現場の現状を掴み、生徒指導に生かしていきたい。

② 今後の改善方策

①全体会議にて教職員向けに研修を行う(外部講師等も含め検討)

②就職・実習にて関連企業にご意見いただいたことを共有し、当校の運営に活かす。

実習評価については、学生の強み弱みの把握に活かすため、集計して分析し、実習訪問の際にいただいた情報やアドバイスについても、会議にて共有する場を設けて教務に活かしていく。

現職として現場で働いている教員(兼務)を増やし、最新のニーズを把握できる体制を整えつつある。

定期的に勉強会を開き、巡回の方法や保育の基礎知識を全メンバーが身に付けられるようにしていく。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・外部講師の研修は不定期だが、コンプライアンス研修を寮長・寮母さん向けに実施をしたり、職員向けにプレゼンの研修も年2・3回実施をしている。(川原委員)

・担任になる先生は必ず受ける研修がある(非行防止研修)、その他、LGBT の理解研修、発達障害・精神疾患の理解研修、AED 研修など生徒の特徴・マインドの研修も多く取り入れている。(高橋委員)

・卒業生として学校で学んで保育現場で活かされているものは、挨拶・笑顔などの基本的マナー。当たり前のことではあるが、褒められることも多くある。その他にも制作のアイディアの量や技術も多く活かされている。(山田委員)

(4)学修成果

【評価項目】(評価=適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

- 1) 就職後について、全国で卒業生向けのアンケートを実施し定着率等を測っているが、実際には早期退職者がどのくらいいるのかが把握できておらず、教育活動の改善に活用までは至っていない。
- 2) 年間を通して退学率が大幅に高くなってしまった。中でも「人間関係」を理由に退学をする生徒も増えていることから、対面授業になり通学する習慣やクラスメイトとのコミュニケーションでつまづく生徒も増えている。

② 今後の改善方策

- ① 資格取得できるサポート体制として、任意検定に関する告知案内の強化と担当教員(PC・食育・音楽)へ傾向と対策を元に取得率向上の意識を持ってもらう。
- ② 早期退職者の数値データの把握をし、就職後に想定できるギャップ、人間関係、早期退職のリスクなど、現場経験者からの体験も含め働くことのやりがいを伝える機会を増やす。
- ③ 対人関係の悩みが増えることの退学防止策としてチーム・ペア担任制を定着させ、教員との不一致を防ぐ。またカウンセリング体制を整え、オフィスアワーによる個別対応の実施や、放課後フォローアップによる学習の遅れを防止、クラス替え廃止の検討なども行う。
- ④ 卒業生アンケートの結果については引き続き分析を行い、効果的な対策を打ち出す。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・早期退職者について、早い人は1年目で辞める人も少なからずいる。仕事で精一杯で相談する余裕がない人向けにOB訪問など実習巡回も兼ねて訪問してくれると嬉しいのではないか。(山田委員)
- ・飛鳥未来高校でも、就職している生徒の追いかけは全てできてはいない。生徒にもよるが辞めたときに報告してくれる生徒もいる。退職を検討、もしくは退職をした場合のルールを決めて発信しても良いのではないか。(高橋委員)

(5)学生支援

【評価項目】(評価=適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

- 1)求人データ化を定着させ、生徒は SANKOGATE(学内ポータルサイト)にて随時確認できるようにしているが、情報更新をタイムリーに行えるよう改善が必要。
- 2)卒業後のサポートシステムを活用しきれていない。

② 今後の改善方策

- ① 求人情報を滞りなく、即日発信できる仕組みを作る。
- ② 卒業生向けには同窓会 sankolink(学内ポータルサイト)、または SANKOGATE(学内ポータルサイト)、Instagram を活用し、求職者への呼びかけなどこちらからも発信していく。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・instagram の卒業生向けの発信は見ている人も多い。卒業生支援同窓会SANKOLINK(学内ポータルサイト)をより活用して、求人や相談窓口を増やし、卒業生向けの発信を増やせたら良いのではないか。(山田委員)
- ・卒業してからも学校を頼っているの知らない学生も多いのではないかと考えるため、在学中から周知をすると良いのではないか。(川原委員)

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

- 1) 2号館に教員が常駐できず、生徒対応に目が行き届かない場面もあった。
- 2) 学生数が増え、教室がフル稼働しているため、来客や面談等に使用できる教室がない。

②今後の改善方策

- ①2号館職員室の運用をスタートさせ、電話回線の整備等、生徒対応が常時できる状況を作る
- ②新たに新校舎(3号館)が8月以降に運用がスタートできるため再度、施設稼働体制を検討する

③特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・学校の存続が求められる中で、新しい校舎として3号館が建つのは素晴らしいこと。教育環境はより良くなることと、学生寮も最寄りに建つこともあり相乗効果が図れるのではないか。(川原委員)

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

- 1) 18歳人口減少に伴い、保育分野については、全国的にも来校数が減少している

② 今後の改善方策

①より保育業界や学校の魅力を伝える機会を増やすための、体験内容や見学会の企画検討、また質の高い教育の提供を職員一人ひとりが意識を持ち、自信を持って学生募集活動ができる状態をつくる

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

今期は第2次中期計画(2018年度～2022年度)の達成状況等の公開と同時に、第3次中期計画(2023年度～2027年度)を公開する予定である。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

外部からの意見をいただく機会はまだ不十分である。

② 今後の改善方策

より多くの外部評価をいただき、当校の発展に活かす。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4

① 課題

- 1)SDGsの取り組みの中で、社会福祉協議会の協力のもと店舗販売等で社会貢献を行っているが、新たな企画も含め、ますます幅広い取り組みを行っていきたい。
- 2)産学連携では、あそびの広場が「札幌市」(こども未来局子育て支援課)と「札幌市教育委員会」(教育委員会生涯学習推進課)で後援許可をいただき、広く告知ができていますが、より参加者を増やしたい。
- 3)保育についての知識を一般の方へ広める取り組みを行いたい。

② 今後の改善方策

- ① SDGsの取り組みを広げる(学校全体で取り組めるSDGs 例:節電・キャップ集め)
- ② 各保育施設や広告期間(ラジオ・新聞社)へチラシを配布し、あそびの広場の取り組みについて広めていく
- ③ YouTubeの定期配信、ラジオ番組参加(生徒も含め)、instagram等のSNS告知等で知名度を上げる

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・ボランティアやアルバイトも機会があれば受け入れは可能。社会情勢に左右されることもあるが引き続き臨機応変に対応したい。(山田委員)

(11)国際交流(必要に応じて)

【評価項目】(評価=適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	-
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	-
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	-
学内で適切な体制が整備されているか	-

① 課題

特になし

② 今後の改善方策

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

現場の方から具体的な提案もいただき感謝申し上げます。当校でも新しい取組みをどんどん取り入れていきたい。現場と教育機関との連携を強化して、時代にあった教育を今後も実施していきたいと考えている。併せて地域の人から愛される学校づくりに引き続き尽力していく(伊藤副校長)